

既設構造物後付けタイプ



削孔状況

既設の構造物にも取付け可能！

コンクリートをコアドリルにより削孔します。

※コアドリル削孔径 φ150mm



取付け状況

先行にガイド管を打込み、背面集水部の空間を確保します。

2重管式ウィーブホールを取付け、M16打込みアンカーにて固定します。



グラウト状況

空隙部分にグラウトを注入し止水性を確保します。

排水機能が失われた構造物を再生させると同時に維持管理も可能となります。

2重管式ウィーブホールのお問い合わせ先



中大実業株式会社

- 本社 〒060-0009 札幌市中央区北9条西24丁目3-12 中大ビル
開発部 TEL: 011-624-0455 FAX: 011-611-8478
営業部 TEL: 011-641-8201 FAX: 011-611-8478
- 函館支店 〒040-0001 函館市五稜郭町31-8 ロクゴー五稜郭ビル2F
TEL: 0138-30-6090 FAX: 0138-30-6093
- 旭川支店 〒078-8232 旭川市豊岡2条3丁目1-6
TEL: 0166-33-4112 FAX: 0166-33-0629
- 稚内支店 〒097-0001 稚内市末広5丁目5-1 国境ビル2F
TEL: 0162-34-8600 FAX: 0162-34-8610
- 仙台支店 〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町3-10 グランシャリオビル3F
TEL: 022-713-6101 FAX: 022-713-6102
- 東京出張所 〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目16-13 ギャラリー田町2F
TEL: 03-5476-9565 FAX: 03-5476-9555

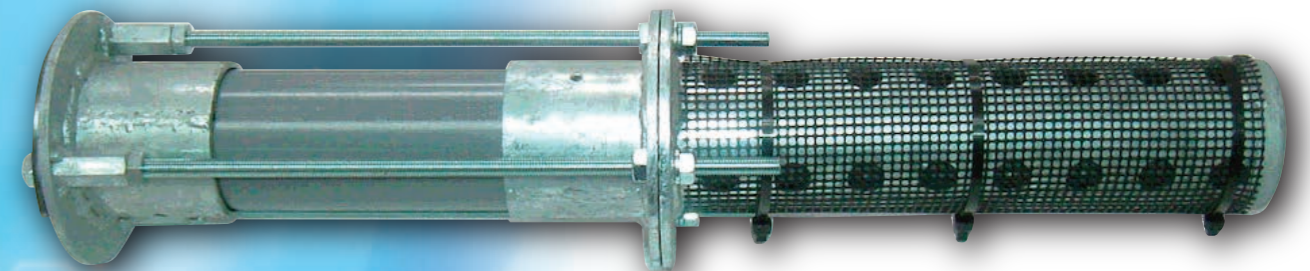


中大実業 
www.chudai.co.jp

性能向上のため、掲載されている製品の仕様等を予告なく変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。

カートリッジ交換型

2重管式 ウィーブホール



中大実業株式会社

ウィーブホールの役割

ウィーブホールはコンクリート構造物に取り付けられ、構造物背面の余剰水を排水することが主な役割です。一般的には塩ビ管を使用した簡易な形状のものが多く設置されています。

ウィーブホールの抱える問題

従来のウィーブホールは目詰まりを起こすとメンテナンスができなため、数年使用すると排水機能がなくなる場合があります。目詰まりを起こすと排水が出来ずに、水圧による荷重増加で擁壁が転倒するなどの悪影響を与えます。

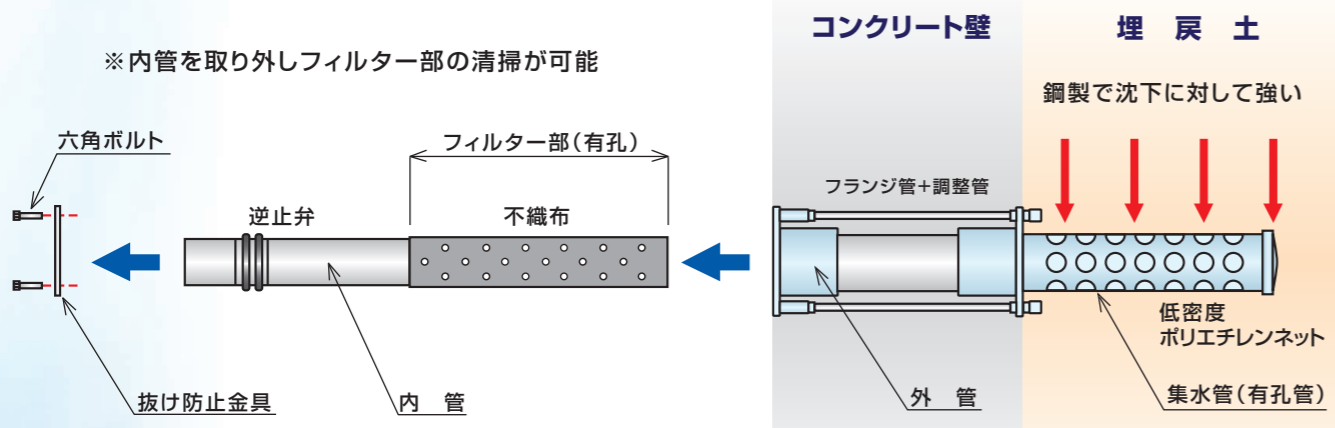
また、土の圧密沈下により背面の集水部(フィルター材)が破損してしまうと、土砂流出により地盤沈下等を引き起こす危険性があります。

工事完了後に補修を行うには、背面の土砂を取り除く大規模な工事が伴うため補修や交換が困難です。

2重管式ウィーブホールの開発

それらの問題を踏まえ「長期にわたり排水機能を損なわない・集水部の破損が少ない構造」にした2重管式ウィーブホールを開発しました。

長期にわたり排水機能を保持するために、目詰まりした内管を引き抜き交換や清掃が可能なた形状としました。又、集水部の破損が少ない構造とするため、背面側突出部の外管を堅固な鋼製としました。



メンテナンス可能な構造

2重管式ウィーブホール



従来型ウィーブホール



現状維持(機能低下)
従来製品では設置後につまりや壊れが発生した場合も、現状を維持することしかできなかった。

- コンクリート内に埋め込んだ2重管式ウィーブホールの内管を清掃する。
- 取り外した内管に付着した土をブラシで清掃する。



→ **本来の機能を回復**